

幼児保育の新目標

(京阪神三市聯合保育會に於ける講演大要)

倉橋惣三

一
幼稚園のことに就きましては、私の浅い研究を以てしましても、實に澤山の問題があるやうに考へられます。他の種類の教育の問題は既に色々研究を積まれて居りますに拘らず、幼稚園問題に限りましては、殆ど全部未決と申しましても宜しいやうに思はれます。是れは我國に於てのみではなく、世界に於ても然う云ふ風な感じがするのでありませう。今日は態々東京からお招きを戴きまして、斯く皆様と御一緒になつたことでありますから、御相談いたしたい、又伺ひもしたい問題は殆んど盡きないのであります。今日は殊に幼児教

育の新しい目標といふ大きな題を差上げて置きました。是れは幼稚園問題の一部分に過ぎないやうな問題でもありますが、併しながら又一方には總ての幼児教育の問題の或程度に於ける根本問題にならうかと云ふやうな考も持つて居るのであります。暫く此の問題に就て御一緒に研究して見たいと思ふのであります。

總て我々の致します仕事は確定したる目標目當を持たなければならぬと云ふことは申すまでもないことであります。ところが竊かに觀ますところには依りますと幼稚園教育に就ては長く此の事に従事せられる方は別としまして、他の方にして新らしく此の教育に従事の方や、局外から幼児教育

を御覽になりまする方々の中には往々にしてたゞ其の教育の對象となりまする兒童の年齢の小さい爲めに、仕事そのものをも比較的軽いことのやうに思はれまして、敢て一個の確定したる目標を立つると云ふやうなことは殆んど更めて考へるを要しないことのやうに思はれて居る方も少なくない觀があるのであります、併し私其の考に依りますると、教育を受けまする被教育者の年齢が長じまして、所謂教育の程度が高くなるに従ひまして、之れに與へられて居る學者の研究や、或は當局の綿密な指定に依りまして、其の教育の目標、又其の教育の範圍のみならず毎日従事しまする教案、授業時間の配當のごとぎに至るまで、殆んど外から規定せられて居ることが多いのであります。然るに幼稚園の教育に於きましては斯る規定が餘程自由になつて居ります。殊に近年は設備の上の規定まで大層自由にされました。此事は幼稚園教育

と云ふものが他の教育とは全く其性質を異に致しまして、其の性質上餘程自由を與へられるべき筈のものであると云ふところから、左様にされて居るのであることも疑ひなき次第であります。又一方には幼児教育などに對しては格段なる規定を與へる必要もあるまい、マア善いやうにしたら宜からうと云つた風に充分明かなる意識がない爲めではあるまいかと云ふことも竊かに考へられないでもないのであります。若しそうならば是れは飛んでもない誤りでありまして、未だ教育の分科が充分に分れず、何を教へ何を如何に與ふべきかと云ふことに就いて一々巨細の規定のない幼児教育に就きましたは切めて明確なる根本的の目標を持つと云ふことが最も必要であります。若し是れがありませぬならば、幼稚園教育は保母の方のお骨折と幼兒の快活なる活動とに依つて、毎日々々或る時間が過さるゝだけで、それが實際何をして居

のか分らないと云ふやうな漠然たることに、自他ともに陥るの怖れがあるのであります。故に其の教育に従事しまするところの人、之れを監督しまするところの人々、及び之れを傍らより批評し、又は觀て居りますところの人々が、互ひに明らかなる目標を持ちませぬならば、其の熱心や尊敬すべく、其の勞力や實に偉大でありますに拘はらず、其の得來りまする成果と云ふものは、殆んど區々若しくは斷片的になりまして、何を幼稚園が與へつゝあるかと云ふことに就いて、人々をして竊かに疑惑を懷かせるやうな殘念なることにもなり兼ねないのであります。

今日お集りの方々に向ひまして、幼稚園教育の必要を説く必要は毛頭之無き事でありませぬ。併し私は常に此の幼稚園教育に熱心だと申される方に向ひまして、いつも試みに一ツの間を發して見るのであります。即ちあなたの従事して居られる幼

稚園教育と云ふものが有益であり大切であり、我國の兒童に多大の貢獻をして居ると云ふ事は固より論を持ちませぬが、假に今我國今日の社會から幼稚園教育が全部取去られましたならば、幼稚園教育がある時と果して如何なる違ひを國民全體の上と與へるのでありませうかと云ふ問を提出して見るのであります。さうしますと多くの方は極めて漠然たる答しかなされないのであります。即ち其の自ら従事して居る仕事、我國の國民全體の現在及將來に何う云ふ關係を有つかと云ふことに就きましたは、其意識が甚だ漠然として居ることがあるのであります。

二

子供を教育致しまするには色々な目標が立ち得ますが、夫れは又色々な特別な要求から作らるゝものであります。第一は其の地方の特別な要求でありませぬ、譬へば工業盛んなる土地であります

るならば、其の工業の盛んなる土地に於て將來大人となつて都合の宜いやうな教育を子供へ與へる、漁業の盛んなる土地に於ては、將來漁業に従事するに適當なるやうな教育を子供に與へる、其他の社會の特殊なる要求に基きまして、それぞれ教育の目標を定められるのであります。第二には其の社會の中に於て、又或家庭の特殊の要求に依つて目標が定められます。私の家庭では斯う云ふ風に育てる、あなたの家庭の子供は何うであるか存じませぬが、私の方は斯う云ふ目的を持つて居る家庭でありますから、斯の如き教育の目標を立てると、斯う云ふことに依つて目標が立てられます。第三には社會及び家庭に於て又特に兒童そのもの、要求に基いて教育の目標が定められます。斯くの如き社會、斯くの如き家庭に於て斯う云ふ教育を興へたいと思ひますけれども、而も其の子供の個性の如何に従ひまして、教育の目標に

多少の變化を造らなければならぬと云ふことが出て參るのであります。斯くの如き教育の目標の細かい點になりますと、各人色々でありますが、併し是等は特殊なる教育の目標を立て方でありまして、夫等を大きく總括して居りますところの教育の大目標なるものは一國の其の時代に於ける要求と云ふことに基かなければならぬのであります。而して我國の兒童に要求する大目標は昔と今とに變りがありません、是れは新目標などとしては論ずるを要しないのであります。たゞそれが時代の要求に依つて變遷致します、今日の時代は何を最も幼兒教育に要求するか、是れが所謂新目標の問題のよつて起るところであります。

三

前に幼兒教育の全體としての根本的目標は、其の時代の要求に基かなければならぬと云ふことを申し上げました。然らば今の時代が今の幼稚園に

要求して居りますことは、何う云ふことであらうかと云ふことを先づ第一に考へる必要があらうと思ひます。素よりそれは澤山に在ります、實に無限と云つても宜いのであります。併し私の思ひまするには、凡そ二つの積極及び消極の大要求があると思ふのであります。先づ考へなければならぬことは、現代は人爲的文明が非常に盛んである爲めに、其の爲めに受けまする人類の幸福が増加しましたと共に、又一方には幼児の身體、及び精神上に非常なる迫害を加へて居ることであります。昔の子供が知らなかつたところの危険を今の時代には澤山見出すのであります。殊に神戸大阪京都の如き盛んなる大都會の兒童に於きましては、最も其事の著しきを見るのであります。此頃の子供の研究中、其の土地の境遇の種類に依つて研究することが又一の題目となりまして、都會の子供、或は田舎の子供、或は郊外の子供と云ふ

やうな問題を掲げ、之れに依つて、研究して居る人があります。殊に此大都會に於ける子供は如何なる特別の事情の下に生活して居るかと云ふことを調べまするのは、最も必要なこととして研究されて居るのであります。實は私は五年ばかり前に大阪へ来ました時に、此問題を著しく感じまして、それ以來少々研究致しました結果、我國の都會の子供が彼の西洋に於ける都會の子供の受けて居る種々の損害に、漸次近きつゝあると云ふことを非常に悲んで居るのでござります。即ち都會に住つて居ります人は、田舎に住んで居ります人よりも多くの生活上の困難を與へられ易く、是れが色々の方面から子供に影響して居ります又假りに生活上直接の困難を免れたとしたところで、光線の缺乏、又は騒しい四圍の音響のために、子供は非常な妨害をされて居ります。夫れは如何なるところに一番大いに損害されて居るかと云へ

ば、子供の身體も害されて居りませうが、私は子供の神経系統が受くる被害に就て最も恐ろしく感ずるのであります。此の意味に於きまして現代の子供は都會が與ふる神経系統上の迫害に堪へる、即ち之れを防いでこれに堪へて行くだけの準備をしなければならぬと云ふことが新しい時代の必要になつて來るのであります。是れは千年前五百年前或は三百年前、或は百年前、或は五十年前の子供は毫も知らなかつたところの時代の新要求であります。

もう一ツは世潮が段々激烈になつて參りますると、世に生き甲斐のある生涯をして行かうと云ふには、愈々強い實行力を必要とする時代になつて來たのであります。此事は必ずしも幼児教育に關したこのみでありませぬから、詳しく説明する必要はないと思ひますが併しながら今日の社會に於きましては、特別な學者的生活とか、詩人的

生活とかを除いて、一般普通の國民としては、兎に角に努力の生活、即ち實行の生活が非常に必要なる時代になつて來て居るのであります。さうして此の實行、此の奮闘、此の精勵の生活、所謂精力主義と云ひますが、總ての艱難に打克つて疲れず所信と使命とを實行して行き得ると云ふことは、是非とも其の人の神経系統の力に俟たなければならぬのであります。

即ち一方からは此の時代が幼児の神経系統を害する、一方からは時代の生活が益々強健なる神経系統の力を要求する、其の消極積極表裏二面の要求が即ち今日の時代の要求なのであります。果して然りとすれば、此の時代に緊切に適合した幼児教育の目標は、幼児の智識を進むると云ふことも素より必要である、幼児の道德的品性を高むると云ふことは尙一層必要であります。殊に今日の時代の特殊なる要求としては、幼児の神経系統

の教育、換言すれば幼児の神経系統の保護と其の養成とが、新しい目標でなければならぬと考へるのであります。

四

昔ソクラテスが言ひましたと云ふ言葉の中に「自分の知つて居ることゝ其の知つて居ることを爲し能ふことゝが一致しなければならぬ」と云ふことがあるさうであります、此の言葉は更に現代的の解釋を以て新しい意味を有して居るのであります。マシウアーノルドでありましたか、「人間の生活の三分の一は考へることで、三分の二は之を行ふことである」と申しました。我々は考へずして、たい行なつて居ることは固より出来ないものでありますけれども、考へてばかり居て爲すことのない人は、遂に此の世の中の劣者となり、敗北者となりて終るのであります。教育が其の子供の感情、智能の働きを非常に練磨しまして、遂に

其の子供は美しき感情と、豊富なる智識とを以て此の世の中に出されましても、若しも此の感情に基き、其の智識に基いて之れを實行するところの力がなかつたならば、其の人は教育の結果、誠に立派な、誠に賢明な人ではありませうけれども、併し甚だ物足りない人として一生を終らなければならぬのであります。此頃亞米利加のスタンレーホール氏の言葉の中に「人間の性格は、其の人の活動力、力の總和である」と申して居ります。是れは冷靜な科學的の定義としては必ずしも完全とは云へないかも知れませんが、併し此の時代の要求を目の前に置き、之れを非常に強く感じて、自分の教へて居る子供が斯くの如く時代に於て行くのであると云ふ將來を見越して考へますと、スタンレーホール氏の所謂活動力、力の總計が其の人の品性であると云ふやうな定義を我々は下したくなるのであります。而して其の活動力此の

世の中に立つて強い力を以て事をすると云ふことは、もう一つ奥へ入つて考へると、其の人の筋肉の力、神経の力でありませう。そこでスタンレー・ホール氏が近世の道徳としては、筋肉の道徳と、筋肉の不道徳とがあるとして居りますのは、最も意味の深い言葉と思ふのであります。感情の上の道徳があるやうな場合に智識の上の道徳あり、又筋肉の道徳と、筋肉の不道徳とがある譯であります。總ての困難に堪へ、且つ又自分の感情なり、自分の智識なりに従つて、吾が爲すべきことを勇氣を以て爲し得ると云ふことは、其の人の神経の働きであります。即ち神経の道徳の偉大なる人でありませう。常に疲れ、常に衰へ、常に憔悴して居りませう。何事にも直ぐ飽いてしまひ、總てのことに活潑なる精神力を發揮することの出来ない人は、假令其の人の感情の中にはどんな麗はしいことを思つて居るかも知れないけれども、是れは筋

肉上の不道徳であると云ふことをスタンレー・ホール氏が申して居るのであります。是れは現代の要求に對する一の考としては實に痛快なる思想であると思ふのであります。

そこで私共が教へます子供、私共が愛して居りますところの子供は、之れを惻怛な者にもしたい、麗はしき感情の者にもしたい、素より身體の健康な者にもしたい、併し私は先づ第一に其の神経の健康なる者にもしたいと云ふことを感ずるのであります。即ち私の今日演題として掲げました『幼児保育の新目標』は神経の健全強健なる子供を造ると云ふことに外ならぬのであります。一體近來は神経衰弱であるとか、ヒステリーであるとか、ヒポコンデリーであるとか、或は何だかクヨク泣いて居る、或は蒼ざめた顔をして悄然として市中を歩いて居る、然う云ふことが近來的、現代的である。其の人が肥満して、眞黒な顔をし

て、さうして忍耐強く働いて居ると云ふことは野蠻的である弱々しきことが現代的である、強さうな者は現代的でないといふやうな考が蔓延りまして、其の爲めに神経系統の衰弱から生ずるところの社會的出來事及び犯罪事件が澤山に殖えて來て居るのであります。又精神病者の増加と云ふことが現代の著しき現象になつて居ります。又最も憂ふべきこととして、我國に未だ幸に然う云ふことがありませぬけれども、歐米殊に佛蘭西等に於きましては、少年自殺者が段々増加して來て居ります。青年にも達しない子供が、チヨット叱られたとか、チヨット試験に落第したとか、或はチヨット何か失策をしたとか云ふやうなことに因つて、其の苦痛、其の不面目、其の悲嘆に堪へ、打ち勝つことが出來ずして、直ぐ自殺してしまふと云ふやうな精神の薄弱なる者が増して居るのであります。外圍の刺戟に對して聊かも持ちたへること

の出來ない、然う云ふ神経系統の弱々しき子供が、あの彼方には次第に殖えて來て居ると云ふことを聞くのであります。さうして其の原因となるべきことが我國に於きましても、矢張り次第に殖えて來るとしますれば、我國の子供も亦遂にはそんなことにまで追々進んで行くのではなからうか。これは考へるさへ甚だ厭なことであります、けれども私共は密かに心配せねばならないと思つて居るのであります。實に今では神経系統の衰弱が文明人の當り前のことのやうになつて居ります。即ち個人の神経衰弱と云ふことは通り過ぎてしまつて、所謂社會的神経衰弱と云ふやうなことになるつて居ります。其の一人々々を責めるよりも、時代の弊かも知れません、

ところで現代の文明益々然う云ふ侵害を與へまするに拘はらず、教育の目標は昔の儘にして居つて、それに對する何等の工夫も與へなかつたなら

ば總ての人は滔々として神經衰弱になつてしまふのであります。これは我國家の上に非常なる憂ふべきこと、云はねばなりません。而して此時に於て我幼稚園の教育なるものが、其の潮流に對して、何等の防衛をもなさないとするならば、其職責に對して甚たすまないことになるのであります。前に幼稚園教育が今日我國からとられたらば、何うなるであらうかと云ふ問を提出しましたが、私の翼ふところに依りますれば、幼稚園の教育があるがために日本國民の神經系統が其の適當の年齢に於て擁護され又強められるのだと云ふ事を三年の後、五年の後、又其の後の將來に於て、ますます云ひもし、言はれもしたいと思ふのであります。素より神經の教育と云ふことは幼児教育のみに限つては居りません。小學校時代に於きましても中學校時代に於きましても、殊に高等女學校時代に於きましても、神經系統教育と云ふことは非常に

必要でありませんが、併しそれ等時代の教育は神經系統教育以外に多く色々な役目を負はされて居ります。色々なことを教へなければならぬ、國民として、又一個人としての生活上の技倆を與へると云ふやうな色々な要求があるのであります。幼稚園教育に於ては、他のことは比較的何も致しませぬでも社會が之れを責めませぬし、充分に此の神經系統の教育に専心することが出来るのであります。又一方に幼稚園時代に於きましては、幼兒の智識を開發することが出来ませぬでも、これは後に取返すことが出来る併しながら神經系統の健全、不健全と云ふことは、丁度此の幼稚園時代に於て最も其大切なる時期に在るのであります。此時に其の神經系統を害されたものは、成長の後に至つて恢復が甚だ六つかしいのであります。是に於て私は殊に幼稚園教育に於て神經系統のことを考へて戴きたいことを希望するのであ

ります。

五

ところで此目標に對して施さるべき實際問題に就ては、色々のことが考へられなければなりません。併しそれは大層細かい部分的の問題に涉りますし、積極的方法としては研究が未だ充分に行き届いて居ないのでありますから。今日は以上申して參りましたやうな見地を以て、今幼稚園を觀ましたときには、何う云ふ感じを持つかと云ふことを側面的に御參考として申し述べて置かうと思ふのであります。

今日の幼稚園教育は色々改善を盡されて居りますがそれに拘はらず私共の甚だ不思議と思ひますことは幼稚園教育の中心が昔のまゝに矢張り室内に在る事でありませぬ。幼兒を教育する場所と云ふものは、屋根の下、壁の中でなければならぬと云ふことは、フレーベルは勿論、誰も然らぬ

ことを申した人はありませぬ。是れが小學校以上の教育でありますならば、野外では出来ない、色々な設備も要るし、又注意集注の爲などから何うしても壁が必要であり、屋根が必要であり、教室と云ふものが必要でありませぬが、幼稚園教育に於ては決して然らぬ事はないのであります、而かも幼兒教育が進歩したに拘はらず、其の中心が矢張り壁の中に引込んで居ると云ふことは、甚だ奇異な話なのであります。多數の子供を室内に置きますことに因て生ずる弊害は澤山に在りますが、今日のお話の見地から考へて見ますと第一に酸素の缺乏と云ふことが、如何に子供の神経系統の方に害を與へるかと思ふ問題を考へなければならぬ。悪い空氣の中に子供を置くことの不可なることは、昔から知れきつた話であります。併し何故可かぬかと云へば、肺が悪くなる、呼吸器が悪くなる、即ち身體の健康に及ぼす害と云ふと

ころからいつも論ぜられるのであります。是れは確かに事實であります。併し吾々としたしては尙ほ他のことを考へなければならぬのであります。御承知の如く酸素が人間に與へまする損害の一番著しい所は脳の皮質であります。即ち人間の精神的生活中の樞でありまするところの大脳の皮質が最偉大なる害を被むるのであります。マーセットの研究に依りますると、酸素の缺乏は人間の意志の虚弱を來すと言つて居ります。即ち酸素の缺乏に依りてたゞ肺が害される、心臟が害される、心臟が害されると云ふところに心配を留めて置くのは、我々に取つて甚だ不充分的注意であります。まして、夫れより進んで意志の中樞に害を受けることと云ふことは、我々に向つて近頃の學問が教へて呉れる怖るべき事實であります。果して然らば何を苦しんでか、酸素の澤山に在りまする室外に於て子供を保育せずして、子供を室内に押込めるの

でありますか。或は壁の中に、而も天井の低い所へ押込めて置くのであります。昔の人は能く子供が悪い事をするとき其の頭腦を打殴りました。今人は子供の頭を打つと馬鹿になる子供の頭を打つては可けないと云ふことを申しますが、室内の教育なるものは、恰も酸素の缺乏を以て子供の頭腦を打殴つて居ると云つても宜いのであります。

第二は机の保育であります。殊に手技手藝の保育であります。私共が幼稚園を拜見に出ると、いつも觀せて下さるのは是れであります。又幼稚園の成績品を陳列すると云へば、三歳の子供がこんな細かいことを仕ましたかとか、こんな器用なことを仕ましたかとか、さう云ふものを誇つて居られるのであります。併し此事が幼兒の神経系統に如何なる關係を持つて居るかとか考へますると又一の驚くべき心配を我々に與ふるのであります。第一は幼稚園時期の子供をして長い時間の間靜かに座

らせて置くことと云ふことの弊害であります。これは何も幼稚園時期に限りませぬ。皆様に對しても長いお話をして餘り長く座らせて置くことと云ふことは非常に可けないことであらうと思ひますが。幼稚園時期の子供に對しては、自然的生理的に害の甚だしいことでもあります。ハノツクと云ふ人は五歳から七歳までの年齢の子供に就て面白い研究を致しました、子供がどの程度静かに立つことが出来るかと云ふことを實驗的に精密に器械を以て研究致しました。ところが其の結果五歳から七歳の子供に於ては、中樞の支配を以て長く静止することは不可能であると云つて居ります。更に同じ研究をカーチスと云ふ人がモット細かに致しました其の結果五歳以下の子供は平均三十秒以上静座することが困難であることを見出ししました。私は初め此の報告を読みましたときに、三十秒と云ふ秒の字は餘り變である、セコンドと云ふ字が使

つてありましたが此のセコンドと云ふことは私も知つて居りましたけれども、もう一度辭書を引いて見たほどでありました。幾ら五歳以下の子供でありましたところで、三十秒以下とは餘りに劇しいことのやうに思ひましたが、カーチスの實驗はこれを證明して居るのであります。五歳以上十歳ぐらゐの子供になりましたも、一分乃至一分半、それ以上の静座は困難だと申してあります。素より是れは極く細かい實驗上の静止で此事を以て直ぐに幼児教育を三十秒以上してはならないと云ふのではありません。併し大人の標準を以て子供に静座を強いることが如何に子供の自然性に反して居るかと云ふことは凡そ想像が着くのであります。

更に手技の色々な仕事と云ふものは、多く指尖を用ゐてする仕事であります譬へば針を通すにしても小さな孔をたどつて通すので中々六つかし

い、併し此の指尖を以て子供が精密なる仕事をすることゝ困難であると云ふことは又實驗的に色々證明せられて居るのであります。矢張りハノックが研究しました。針を通しましたり、或は器械を速かに指尖で打ちましたり、然ういふやうな手尖でする細かい仕事を研究して、斯う云ふ結論に達して居ります。身體の運動の發達は……殊にハノックは手でやりましたが、先づ肩の筋肉の運動が一番早く發達する、其次は肘である、其次は腕である、次が手である、手の中でも人差指は比較的早く發達するけれども、指尖の發達と云ふことは非常に後のことである、普通の五歳から六歳ぐらゐの子供に於て、如何に其の子供が優良なる子供であつても、普通の状態は丁度精神病者にある運動の失調に似たものである。或は舞踏病、或は麻痺性の病氣に同じものである、即ち夫れ以上の精密な仕事を要求するのは不自然であると云ふこ

とを申して居ります。我々が實際に之れを應用するときには、又其所に種々の斟酌もしなければなりません。併し餘り細かい正確なる仕事を子供に強ひると云ふことは、非常に生理的、自然的に不自然であります、即ち是れ亦大人の標準を以て之れを強ひると云ふことは最も亂暴な話であると云ふことは、之れにて直ちに見當が着くのであります。一體近來は小學教育に於ける手工教育に對してさへも種々な點の批難が出て居ります。譬へば手工教育は腕から先だけの筋肉を使つて少しも身體全體の筋肉を使はない殊に手工の弊害は腰から下の足部の筋肉を度外視して居ると云ふやうなことを擧げて攻撃をされる人がありま

す。況んや幼稚園教育に於て或長い時間の間に先生の上手な獎勵法に依りまして子供の自然に反し居ることを敢てしなければならぬやうにされて居るのは、實に近世教育の進歩に於ける矛盾

盾であると言はなければなりません、元來運動の筋肉の發達は基礎的の方からして段々基礎的でない細部的のものに向つて進んで行く、即ち胴とか肩とか云ふやうなところの大きな筋肉の發達から、段々手先、或は足の指先、或は顔面の筋肉と云ふやうな小さい方の部分に發達して行くのであります。然るに此の順序を無視して、我々が大人の標準を以て今日吾々が物事をするのは手先である手先は器用にならなければならぬ、何でも手先を發達させなければ可けないと云ふ論理は如何にも大人に道理でありますけれども、併しながら子供に取つて見ましては、往々不自然な要求になるのであります。今日の幼稚園教育に就きまして斯う云ふ方面から批評して見ますれば、尙ほ色々なことがあらうと思ひますが、たい以上二三のことを考へて見ましても、今我々の爲して居ります幼稚園の教育法と云ふものは、子供の感覺を發達

させ、子供の手を器用にさせること云ふやうなことが中々重く見られて居ります。併しながら神經系統の擁護、及び其の養成と云ふやうな新しい目標に對しては、是れが決して適當のものではない。自から其の方法に變更を見なければならぬと云ふことを考へらるゝのであります。

六

そこで是等の缺點を救つて、さうして此の新しい目標に合ふやうに仕まするには、何うしても戸外に重きを置かれて來なければならぬであります。御承知のやうに教育は屋根の下壁の中にあるものと云ふ一の定義から離れまして、野原でも出来るものである、森林でも出来るものである、雨が降れば初めて屋根が要ると云ふやうな、殆ど今までの教室、保育室、開講室とは異つた意味になつて來なければなりません。斯ることは小學教育としては現に此頃の新しい傾向であります

て即ち野外學校でありますとか、森林學校でありますとか、森林學校でありますとか、皆此の新らしい考の上に立つものであります。初めて千九百六年であります。たか、伯林の近部のシャロットンブルグの松林の中に森林學校が出来までた以來、英吉利の方でも、亞米利加の方でも、然う云ふ學校が出来るやうになりました。殊に亞米利加の或學校のごときは、其の戶外學校を開かうとしますのに、既に土地がない爲めに、在來の學校の屋根の上に一の戶外教室と云ふものを造つて居るくらゐであります。私は寫眞の繪で見たのでありますが、其の苦心に驚いたのであります。理論から言つても、實際から言つても斯くの如き趨勢に對しまして、我々が現在の幼稚園の建物を以て、保育の中心とし、之れに附屬して居る遊び場はチョット息抜であると云ふぐらゐのものに考へられて居ると云ふことは、非常な間違ひであらうと思ふのであります。

但し外國に於ける郊外學校、森林學校のごときは多くは氣管支、或は神經系統の弱い子供、或は既に病氣になつて居ります子供のために設けられて居るのでありますけれども、今申し上げましたやうな様から申しますならば、先づ健全なる兒童を然う云ふ所で保育して行くと云ふことが、都會の幼稚園に於ては最も必要であると言はなければなりません。

次に考へて見なければならぬのは、今日まで我々が金科玉條として居りましたところの、一々物差で測つて何寸四方でなければ可かぬとか、或どのくらゐの重さでなければ可かぬとか云ふやうにして拵へたところの人爲的保育材料、即ち幾つかの恩物と云ふものであります。一體此の恩物と云ふものは更めて申すまでもありません、フレール先生の深い考から案出せられたものであります。が、其の精神の貴重なると共に先生は非常な厄介

なものを我々に遺して呉れたものであります。即ち前に申し述べましたやうな手先の仕事の弊も多くなって此の恩物が災をして居ります。恩物は英語でギフトと申します、即ち天から與へられた物と云ふのであります。併し現在眞の恩物として天が與へて居るところの物は樹木、草花、石砂、土、水、其他澤山の自然物あります。態々指物師に頼みまして、寸法何うとか斯うとか云ふ、そんな小さい恩物を用ゐなければ恩物でないかのやうに考へて居りまするのは、非常な間違であります、フレールが今日尙ほ居りまして、新しい兒童研究の結果を知られましたならば、必ずや此の恩物主義は撤回されるであらうと思ふのであります。然らば野外に出しまして酸素の供給を充分にして自由自然物を以て遊ばせ、さうして末端の神經の作用を後にして、足、腰、肩と云ふやうな大きな筋肉の使用を先づ以てさせることが幼児保育の新

目標に合つたことなのであります。都會の子供は天が本當に與へて呉れます恩物、即ち自然物に對して如何に貧弱な智識を持つて居るか云ふことは實に驚くべきことであります。彼の新入兒童の觀念調査を一番初めにされたのは、伯林の子供でありましたが、其の伯林の都會の子供にして、既に小學校に這入ると云ふ年齢に達しながら、森を知つて居る者が百人中三十六パーセントぐらゐの割合であります、十人の中に三人ぐらゐの割合であります。山を知つて居る者が三十二人ぐらゐ日の出を見た者は三十一人それから又露と云うものを知つて居る者が僅に二十三パーセントでありました。其他所々で斯う云ふ風な研究をして居る學者がありまして、殊にスタンレーホール氏のごときは、小學校入學の子供が如何に自然の智識に就て缺けて居るか、殊に都會兒童が之れに缺けて居るか云ふことを極論して居ります。斯くの如

く自然のことに就て智識が少なくいと云ふのは何も樹木や草花の智識がないと云ふばかりではありません。モット大きく考へれば兒童が如何にも自然に接する機會が少なくいと云ふ憂ふべき事實の證明になるのであります、此事は西洋の報告に依つて見て居たのであります、京都大學の野上君が京都の小學校に入學する子供に就て調べました研究に依りましても樹の名は平均一人に就て一種九分であつた、二種以上の樹の名を知つて居る者はないのであります。草の名に至りましては一種まで行かない、平均一人につき九分二厘であります、此事は比較的自然的多い大都會と云はれて居る京都に於て、斯くの如き有様であるとしませるならば、大阪の如き、神戸のごときは大體想像が出来るのであります。是れ戶外保育、野外保育、自然的保育の急務は斯る方面からも要求せらるゝのであります。是れは歐洲に於ては段々氣附かれて居

ること、彼の有名な伯林のベスタロッチーフレールハウスの現況を聞いて見ますると、室内の作業と云ふものは段々減じまして、著しき程度に於て室外と云ふことが重んじられて居ります。園内に牛が飼つてありまして子供の前で其の牛の乳を搾る、或は畑地を耕し、草花を植ゑる。然う云ふ野外的、自然的保育が盛んに採用せられて居るやうであります。これは我國の都會幼稚園に於て現今最も注意すべき點と思ふのであります。

もう一つ終りに申上げて置きたいと思ひますことは、總て子供に對する色々なことは御婦人の力を藉りなければならぬと云ふことが、此の神經教育と如何なる關係を有するかと云ふ點であります。私の思ふところを露骨に申し上げますと、御婦人が保育をして下さることは、百の利益、千の利益萬の利益と共に、茲にたゞ一ツ起り易い缺點が有り得るのであります。此事は今日御婦人のみ

お集りの所に於きまして、甚だ失禮なやうな言ひ方ではありますが、事實として子供の利益の爲めに一の苦言としてお聴取を願つて置きたいのであります。一體現代の文教がフエミニズム……婦人式とでも譯しますか、或は意譯してやさし主義とでも申しませうか、然う云ふ風な傾きを有すると云ふことは、社會一般の風かも知れませぬが、是れは少し考ふべきことであります。勿論其の傾向に至極良い點も澤山にあります、私の今日申し上げました時代の要永に對してどうも是ればかりではならないと思ふのであります。幼稚園教育法の一の弊害として、小さい筋肉、小さい神経を使用するといふことに自然傾いて來て、相撲は取らない、競走はしない、木登りはさせない、餘り走つては危いと云つて、手を引いてそろ／＼歩く、植物を弄ると云つても大きな木を弄らない、たゞもろ小さい草や花を弄る。素より植物は大きなもの

でなければ利益がないと云ふことはありません。けれども兎に角然う云ふやさしい細かいことのみ傾き易いと云ふことは、是れ又今日の一の缺點であると言はなければなりません。

七

幼稚園教育法が今日色々な人から往々にして攻撃されたりして居ります。それも多くは素人の言ふことだと思つて聞き流して置いても宜いこともありますが、それ等の批難の中で幼児の精神疲労問題に就ての論議は、誠に幼稚園教育の中心に觸れて來る論であります。三歳四歳の子供をあつて大勢保育して居ることは、他の利益が百あつても、其の幼児の神経に無理な疲労を一ツでも與へたならば、其の百の利益は皆失はれてしまふのであります。幼稚園教育者自身が神経系統の教育と云ふことに就て、未だ餘り氣の注がない間に外部から段々此の種の心配を惹いて居るのであります

即ち神經系統の教育に對して適當なる方法を施し得ましたならば、始めて時代の要求に適合するところの我國民の將來に大影響を有し得る、新らしい幼稚園の存在甲斐があるのであります。大層長いお話を致しましたが、此問題は、是非深く考へ戴きたいのであります。

夏やすみ後

○夏やすみが残して行つて呉れた雑草が園一ぱいに蔓つて居る。お山の上にも、砂場のまわりにも、花壇の後ろにも、人跡まれなる大原野の態に茫々と茂つて居る。おひしば、めひしば、あれちのぎく、おいばこ、とほしがら、のびふ、かたばみ、むらさきかたばみ。其の間をこうるぎが飛ぶ、ばつたが飛ぶ。こゝ暫くは雑草主義遊園の理想の時。

○練瓦敷の遊園にも、アスファルト敷の遊園にも、季は此の雑草を藁もうとして居る。併し上から重たく抑へつけられ、隙きまもなく敷きつめられて居ては、草ば下で泣いて居るに相違ない。一と夏の干燥した日光にから／＼に粗されて、ほこりつぼく、かさついで居る人工遊園に、此の純自然の趣味深いおもしろ味は得られない。

○なにがしの茶の宗匠が設計にかゝるといふ。庭師をいれて何百圓かいつたといふ。珍葉奇石、山のたゞすまい、泉水の眺め、ハア結構ですと茶の十徳がなんか賞鑑する様な御庭に、此の雑

草がはえたらどうであらう。殿様のお聲が、りて草一本あつてもならぬ。刈れ々々一日も早く刈つて仕舞へといふことになるだろう。その刈つたあとは何とする竹垣などどうめぐらして、いとみやびに、風情おかしく打ち建てられたる立札には、墨のあと美しくも、子供禁制とかかれたる。

○兎に角くに子供は大よるこびである。半ズホンの膝を没する雑草の間を馳け廻つて、きやつきやつと言つてばつたを追ふて居るみづびきの赤いのをしごいて来て、小さな紙きれに包んだり、あをぎりの實をむしつて葉に盛つたり、おまゝごとの御馳走はいくらでもある。お庭でも、公園でも、幼稚園でも、草は見るものは眺めるもの。その、見て眺めて而して觸るゝべからずときまつて居る草が、こゝ暫くは遠慮なくふんだんにむしつよいのである。草と一しよになつて遊んでよいのである。當分は別に玩具も何もいらぬ。此の雑草にこそ、自由自在の玩具がある。恩物がある。

○可愛そうな都會の子供達は、此の雑草を特別の賜物のように喜んで居る。自分達の生活に必然の世界として、いくらも自然が興へて居て呉れる野も知らず山も知らず、そこで遊んだ先祖達の幸福も知らず。たま／＼の夏やすみを利用して、自然が辛じて興へて呉れた此の雑草に、渴げるものゝ水を得たように喜んで居る。そして年に一度づゝの此の雑草に、眞に面白い遊園の樂しさを享けて居る。

○年にたつた一度でも此の雑草のある幼稚園は幸な幼稚園である。一日でも多く此の雑草を刈らずに置いて下さる先生は感謝すべき先生である。